

【大学礼拝週報】 2018年度 第28号 (後学期第13号)

2018年12月18日(火) 午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

酪農学園大学クリスマス・コンサート (クリスマス礼拝)

《大学礼拝》

司 式 小林昭博 (酪農学園大学宗教主任)
奏 楽 佐藤理恵 (日本基督教団野幌教会員)
讃美指導 相原晴伴 (酪農学園大学教授)
指 揮 牧野時夫 (北海道農民管弦楽団代表)
出 演 室内楽団・吹奏楽部・合唱部・聖歌隊

前 奏 シンフォニア (『メサイア』より) 室内楽団・吹奏楽団
招 詞 イザヤ書7章14節b

見よ、おとめが身ごもって、男の子を生み その名をインマヌエルと呼ぶ。

讃美歌 讃美歌112番 (もろびとこぞりて) 一同

聖 書 ルカによる福音書1章26-38節

26 六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。27 ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。28 天使は、彼女のところに来て言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」29 マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。30 すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。31 あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。32 その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。33 彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」34 マリアは天使に言った。「どうして、そのようなことがありえますか。わたしは男の人を知りませんのに。」35 天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。36 あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。37 神にできないことは何一つない。」38 マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」そこで、天使は去って行った。

讃美歌 讃美歌103番 (まきびとひつじを) 一同

聖 書 ルカによる福音書2章1-7節

1 そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。2 これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住

民登録である。3 人々は皆、登録するためにおのおの自分の町へ旅立った。4 ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。5 身ごもっていた、いいなずけのマリアと一緒に登録するためである。6 ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、7 初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。

合唱讃美 “Ave Verum Corpus” 室内楽団・合唱団・聖歌隊
聖 書 ルカによる福音書2章8-20節

8 その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。9 すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。10 天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。11 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。12 あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」13 すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。14 「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」15 天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。16 そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。17 その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。18 聞いた者は皆、羊飼いたちの話をも不思議に思った。19 しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。20 羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

讃美歌 讃美歌21 263番 (あらのはてに) 一同
聖 書 マタイによる福音書2章1-12節

1 イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。そのとき、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、2 言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」3 これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった。4 王は民の祭司長たちや律法学者たちを皆集めて、メシアはどこに生まれることになっているのかと問いただした。5 彼らは言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者がこう書いています。

6 『ユダの地、ベツレヘムよ、
お前はユダの指導者たちの中で
決していちばん小さいものではない。
お前から指導者が現れ、
わたしの民イスラエルの牧者となるからである。』」

7そこで、ヘロデは占星術の学者たちをひそかに呼び寄せ、星の現れた時期を確かめた。8そして、「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせてくれ。わたしも行って拝もう」と言ってベツレヘムへ送り出した。9彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。10学者たちはその星を見て喜びにあふれた。11家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。12ところが、「ヘロデのところへ帰るな」と夢でお告げがあったので、別の道を通って自分たちの国へ帰って行った。

祈り 司式者

聖書 ヨハネによる福音書 1章 1-5節

1初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。2この言は、初めに神と共にあった。3万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。4言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。5光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。

奨励 「クリスマスの光」 小林昭博（酪農学園大学宗教主任）

讃美歌 讃美歌 109番（きよしこのよる） 一同

祝 禱 奨励者

後 奏 「いざ歌え、喜べ」（クレンケル作曲）

【謝辞】

2018年度酪農学園大学クリスマス・コンサート（礼拝）の開催を感謝いたします。7回目となる今回も揮者・音楽監督として牧野時夫先生（北海道農民管弦楽団代表・指揮者、有機農園えこふぁーむ代表）をお迎えすることができました。特別の感謝を捧げます。室内楽団、吹奏楽団、合唱部、聖歌隊、学生・教職員有志のみなさん、素晴らしい演奏と合唱をありがとうございます。讃美指導と相原晴伴先生と奏楽の佐藤理恵先生に感謝申し上げます。学務と教務のスタッフと授業に関してご配慮くださった教員のみなさんに篤くお礼申し上げます。全体の運営の責任を持ってくださったキリスト教学の高橋優子先生、どうもありがとうございます。本日礼拝に出席くださったみなさんにも感謝を捧げます。一緒にクリスマス・キャロルを歌うことができたことを嬉しく思います。みなさんが素晴らしいクリスマスを迎えられるようお祈り申し上げます。「地には平和」(ルカ 2:14)。

【次回の大学礼拝】2019年1月8日（火）10時40分

次回の大学礼拝は、韓国CCCの学生たちによる特別プログラムです。

【前回の大学礼拝】2018年12月11日

学生：183名 教職員ほか：22名 合計：205名